

移住は目的ではない。  
最大のテーマは  
その地で、  
どう生きるかということ。

永

松さんはこれからの夢をこう語ってくれた。「久賀島を訪れる人の多くは、旧五輪教会堂を見ると、すぐに船で帰って行かれます。でも、この島にはまだ隠された歴史が眠っている場所があります。風のない日は、澄んだ入江に山々が映り、美しい風景が広がります。これを見ずして、島を離れるのは実にもったいない。私はこうした島の魅力をお伝えし、教会堂だけでなく、島全体を巡ってもらえる方を一人でも多く増やしたいと思っています。」

人は夢を持って新しい土地へと向かう。しかしその場所にあるのは、希望だけではない。移住者たちは、その土地ならではの良さと難しさを受け入れながら暮らしている。

都会からの移住者たちは「満員電車に揺られ、バタバタと働き、家に帰って眠るの繰り返し。そうした生活に疑問を覚えていた」と話す。そして、お金のためだけに働くことのむなしさを感じていた。彼らが求めているのは、家族との時間、好きなことをする時間、人とのつながり、ここでしか出来ない仕事であり、心豊かに生きることこそが、よりよい人生であるという答えを導き出していた。

ある移住者はこう言った。「どこに暮らしていても、大切なのは自分がどういう生き方をしているかだと思います」。本当は、どこで暮らすかなんて、大したことではないのかもしれない。しかし、だからこそ人は「この土地だからできる生き方」を模索するのだろう。

旧五輪教会堂に、一人の若い女性が入って来た。東京から来た彼女は、島への移住を考えているという。彼女もまた、自分らしい生き方を探し続けているのかもしれない。